

第1章 朝日座

国登録有形文化財 (2014)
福島県南相馬市原町区大町1丁目120

敷地の奥に建つその姿は、朝日座そのものが自らを演出しているかのような存在感を与える。平成24年の夏、再訪した朝日座で、探検するように裏方に残る芝居小屋時代の栈敷席や楽屋などを次々と目にしたことで、朝日座が今まで積み重ねてきた原町の歴史を見た。

朝日座こそが、南相馬市の建物調査の本格的始動、そして人々のつながりを生みだすきっかけそのものとなった。

朝日座の建築

朝日座は、福島県南相馬市原町区に所在し、近世の宿場町として栄えた原ノ町宿を南北に走る陸前浜街道（通称：野馬追通り）と、近代の鉄道開通により発達した東西に走る駅前通りが交差する四ツ葉交差点から東側へ一本入った通り沿いの敷地奥に西面して立つ。

創建と沿革

朝日座は、地元旦那衆12名により結成した旭



朝日座の正面 三角屋根とてっぺんの屋根飾りが印象的なシルエット。淡い黄色い壁によく映える「ASAHI」の文字は、当時の館主布川氏によるデザインで斜体の時代もあり意匠が凝らされていた（布川夫妻への聞き取りによる）

座組合の組合長日下庄吉と工事請負人関場清松により、大正 12 年（1923）7 月 2 日、芝居小屋兼常設映画館「旭座（あさひざ）」として落成した。その後、昭和 26 年（1951）に「朝日座」に改称、昭和 30 年代に映画専用館に大改修し今日の姿になる。平成 3 年（1991）に館主布川雄幸氏のもとで常設映画館としては閉館を迎えたが、その後も定期的に映画上映やイベントを開催し、映画ロケ地としても活用されている。

旭座組合長の日下庄吉は、小高町（現南相馬市小高区）の出身であり原町で不動産業を営み、工事請負人の関場清松は現在の関場建設株式会社の創業者であり、朝日座の創建前には大正 10 年（1921）に開局した鉄筋コンクリート造で高さ 200 m の無線塔を有する煉瓦造りの原町送信所を手掛けた（いずれも現存せず）。

朝日座の創建を裏づける史料として、創建時の建設工事請負契約書、及び落成記念撮影写真がある。

朝日座の特徴

朝日座は、木造二階建て外壁モルタル塗仕上りで、正面は切妻造りにパラペット（正面に四角く立ち上がった壁）を立ち上げ、背面は寄棟造の瓦棒葺きである。小屋組は梁間 10m を越す芝居小屋の大空間を柱なしで確保できるトラス構造である。正面から見ると立ち上がったパラペットから切妻屋根の三角形がのぞき、さらにその頂上に高さ約 2m の飾りが設置され、地域に親しまれる朝日座の特徴であり顔となっている。

外観 パラペット裏には曲面状の屋根と旧パラペットが、北西隅には当初の軒蛇腹が部分的に残る。外壁仕上げはモルタル塗りだが北西隅及び二階開口部の内側に当初のドイツ壁が残り、昭和



南から見る 下屋部分のかつての看板絵描の作業部屋内部には多数のペンキ跡が残る



北から見る 南面と同様に映画館として使用するため二階開口部が閉じられている



北面東隅に軒蛇腹の断片が残り、当初の朝日座の姿を伝えている



正面パラペット裏に曲面状の屋根が残る。
屋根葺替工事の調査により判明

10年（1935）の秋市興行で撮影した写真を元に描いたイラストからも、かつて正面全面がドイツ壁であったことが窺える。またこのイラストでは現在正面脇に位置する券売所が正面中央に描かれている。

一階 現在椅子席となっている客席は、落成記念撮影写真から当初は枡席で北側に花道があったことがわかるがいずれも痕跡は失われている。映画館の時代の改造で南・北面の棧敷席は仕切り壁により封鎖されたが、この裏に当初からの棧敷席がほぼ完全な形で残り、当時の床板や畳敷きの跡、手すりが見られる。なお、無声映画時代には客席後方に臨官席が設置されていた。

二階 一階にもある北・南面の棧敷席に加え、西面の仕切り壁の裏にもほぼ完全な姿で棧敷席が残る。西面の棧敷席は舞台側に向け傾斜しており舞台が見やすい工夫がされている。東面の舞台裏は、かつて役者の楽屋及び宿泊部屋として使用され、今は大きな一部屋となっているが、一間間隔に立つ柱下方の手すりの痕跡から簡易な間仕切りにより6部屋に区切られていたと推測される。映写室の両脇の空間は映画館の時代には弁士の住まいであった。

奈落 舞台及び北側の棧敷席の下には奈落が残る。当初から床仕上げはなく、地面に敷いた簀子や貸し火鉢、台本置き、黒板などが残る。回り舞台の痕跡は確認されなかった。

天井 客席天井には、かつての折上げ格天井が残る。格縁は繰り型付きの薄緑色のペンキ塗りで4.5尺間隔に配置され、天井板は格縁内ごと一体に外せるよう胴縁が止められている。引き札（広告）の貼り替えのためかと思われるが、紙の貼られた痕跡は認められない。当初天井と現在の天井の間には、さらにもう一時代の天井があり合計3代の天井が残る。舞台側の小屋裏には上演に利用



ステージ側の小屋裏から見た洋風トラス



緑色のペンキが塗られたかつての格縁天井
(下方が現在の天井の裏)



小屋裏に残る舞台装置の滑車。滑車前の固定された丸太には、縄の擦れた跡が深く残る



小屋裏に残る折上げ格天井（当初天井の裏より）

朝日座の舞台裏

朝日座には当初の芝居小屋から映画館時代、そして現在までの歴史が形として積み上げられてる。芝居公演や映画上映のほか、弁士の住まいや学芸会の会場など、様々な人が集まる場所であった。



■ 北側二階階段

南面と同様に床板と畳敷きだった荒板が残る。手摺内側には煙草を押しつけ消したような焦げ跡が多数見られる。



■ 北側一階階段

非常口を新設し分断されているが階段が残る。天井はクリーム色、奥は紫色などペンキの色から改修変遷が窺える。



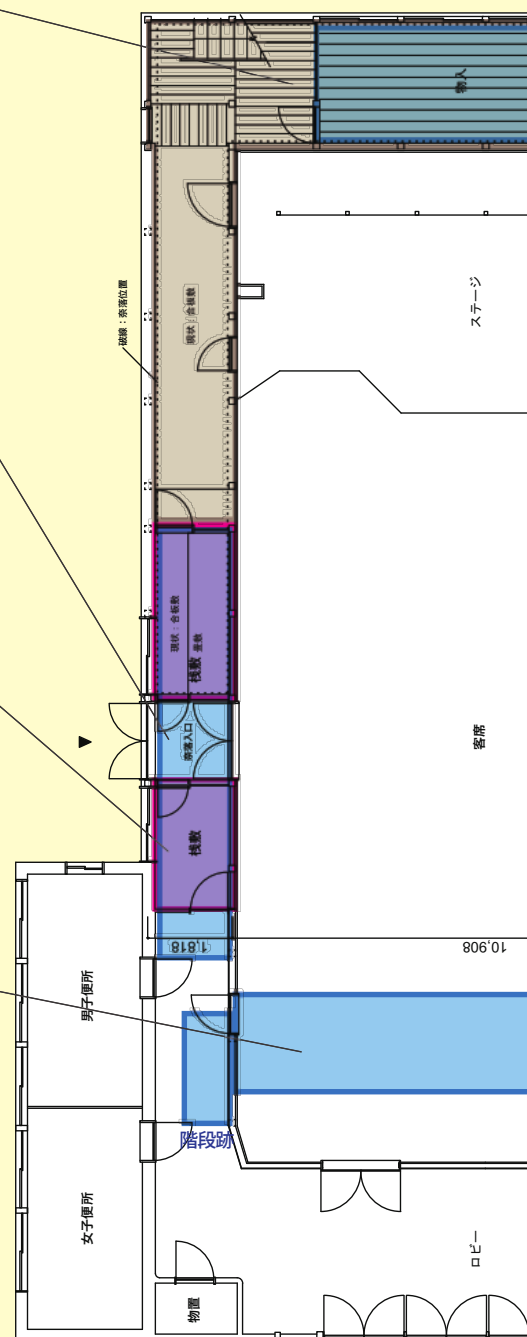
■ 西側二階階段（大向こう）

映写室の仕切り壁の裏にほぼ完全な姿で階段が残る。舞台側に向け傾斜し、舞台が見やすいようになっており、傾斜した手摺や垂れ壁が残る。階段の北側には、かつての階段の框や手摺の痕跡が残る。



■ 舞台下の奈落

台本置きや貸し火鉢などが残る。回り舞台の痕跡は発見できていない。





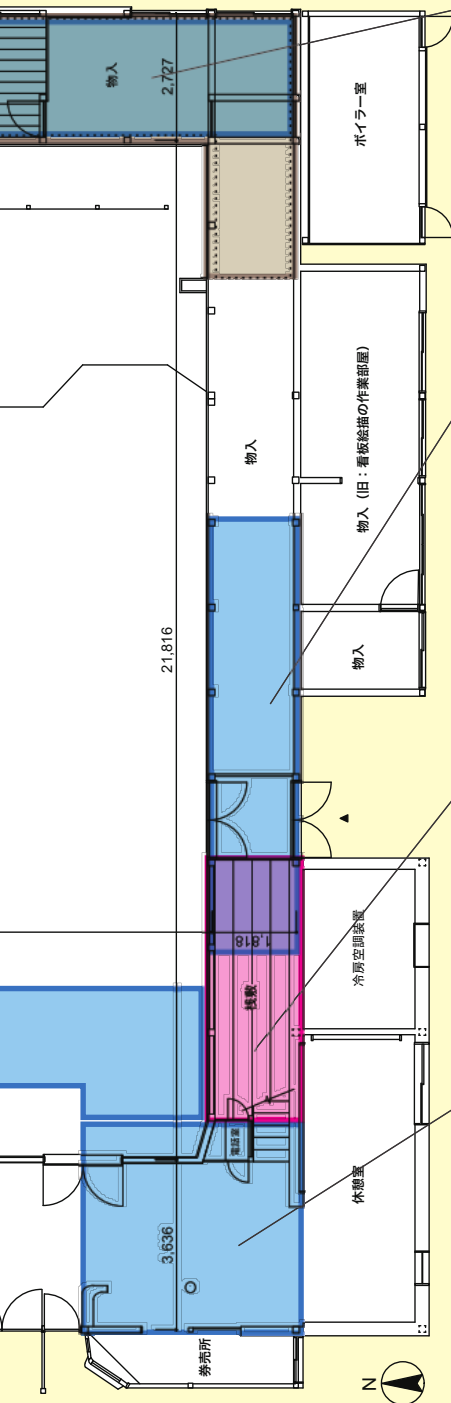
■ 舞台裏の二階

かつての楽屋で、役者たちが化粧をしていたという。当時の役者が書き残した文字が壁に残る。



■ 南側二階棧敷

畳敷だった荒板（床左）と板敷き（床右）があったことがわかる。手摺もそのまま残されている。



一階平面図に
二階棧敷位置などを重ねる

- 奈落
- 一階
- 二階



■ 南側一階棧敷

現在の電話室の奥にある。手摺がそのまま残され、右側には階段手摺と思われるものが残されている。



■ 二階映写室手前の部屋

かつて弁士の家族が暮らしていた部屋。子どもは二階棧敷の手摺に上って遊び、一階に落ちたこともあるそう。（弁士のご家族からの聞き取りによる）

した滑車や足場が残る。

その他 建物南面にはボイラー室や冷房空調装置、看板絵描の作業部屋がある。建物南側の空地の一部には、かつて看板絵描の住まいがあった。

近年の改修 平成 23 年（2011）の東日本大震災による建物被害はほとんど見られなかったが、雨漏りが続いていたため平成 24 年度に屋根改修工事を行った。瓦棒葺き屋根の旧状については様々な証言が寄せられたが、事前調査の結果、野地板は小屋組の化粧裏板を兼ねる当初材の厚板であり他の葺き材の痕跡はなかった。従って経年劣化した鉄板を撤去し木部を補修、建設当初と同様に職人の手作業による工法を採用した。撤去した銘入亜鉛鉄板の一部を史料として保管している。また取り外され保管されていた東側の屋根飾りを屋根に復旧した。なお現在の正面外壁は平成 23 年にペンキで塗り直されている。

朝日座の評価

朝日座は、時代の変遷とともに行われた改修履歴が積層し、今にも当初の芝居小屋の形態をほぼ完全な姿で残しており、芝居小屋が常設映画館に至る改修の履歴を知ることができる貴重な建物である。また、かつては芝居や映画といった昼夜にわたる非日常空間のほか、学芸会や発表会などの日常空間を提供し続け、一方役者や弁士などの生活の場ともなり、朝日座に係る人々の生活にとって欠かせない特別な役割を持つ建物であった。現在その姿は、青春の思い出を想起させる地域にとって親しみある存在となっている。

朝日座は、原町の町並みの重要な要素であり、建物の歴史とともに朝日座に係る人々の記憶をも後世へ継承する地域にとって貴重な存在である。

竣工 : 大正 12 年（1923）7 月 2 日
根拠 : 創建時の建設工事請負契約書、落成記念撮影写真
設計 : 不明
施工 : 関場建設株式会社
所有者 : 一般社団法人 朝日座

朝日座を楽しむ会の歩み

震災前の歩み

平成 19 年度南相馬市マナビカレッジ事業・生涯学習振興事業の一環として開催された「生涯学習まちづくり講座」に参加した朝日座を守りながら、保存していきたい有志によって、平成 20 年（2008）3 月に「朝日座を楽しむ会」が立ち上がった。

会では、朝日座の存在と映画上映と寄席などの活動を楽しむことによって、朝日座が将来に遺り、地域に生かされることにつなげることを目的とした。この目的に沿って、東京国立近代美術館フィルムセンターの協力を得た上映会のほか、現在まで続く朝日座サロンなどの活動が行われている。

平成 21 年（2009）には朝日座維持・保存についての陳情書を、朝日座を楽しむ会、栄町共栄会、栄町商店振興組合の連名で市に提出したが、具体的な動きに結びつかなかった。

震災後の歩み

平成 23 年（2011）3 月 11 日の東日本大震災を経ながら、楽しむ会は同年 6 月という震災間もないなかで復興映画祭を開催した。その後も朝日座映画祭や朝日座寄席など、震災の影響が強い状況の中でも積極的な活動を行った。

さらに同年 12 月には一般社団法人朝日座を設立。個人所有であった建物の所有権を社団法人朝日座に移転し、今後の保存活用の組織体制を整えた。



ホール 昭和 31 年 (1956) から高藤建設により映画館として改修工事を始め、昭和 35 年 6 月に現在の姿に完成。写真左側の壁の裏などには提灯が並んでいたという桟敷が残る。柵席の撤去は昭和 28 年 (1953) 以前という (布川夫妻への聞き取り)



ロビー 昔の映画ポスターがいくつも飾られ、映画上映やイベント後には笑顔の人々で賑わう。かつては建物正面にあたる、写真左側の鉄柱のあたりに受付があった

「旭座」落成記念撮影写真（大正 12 年 (1923)）

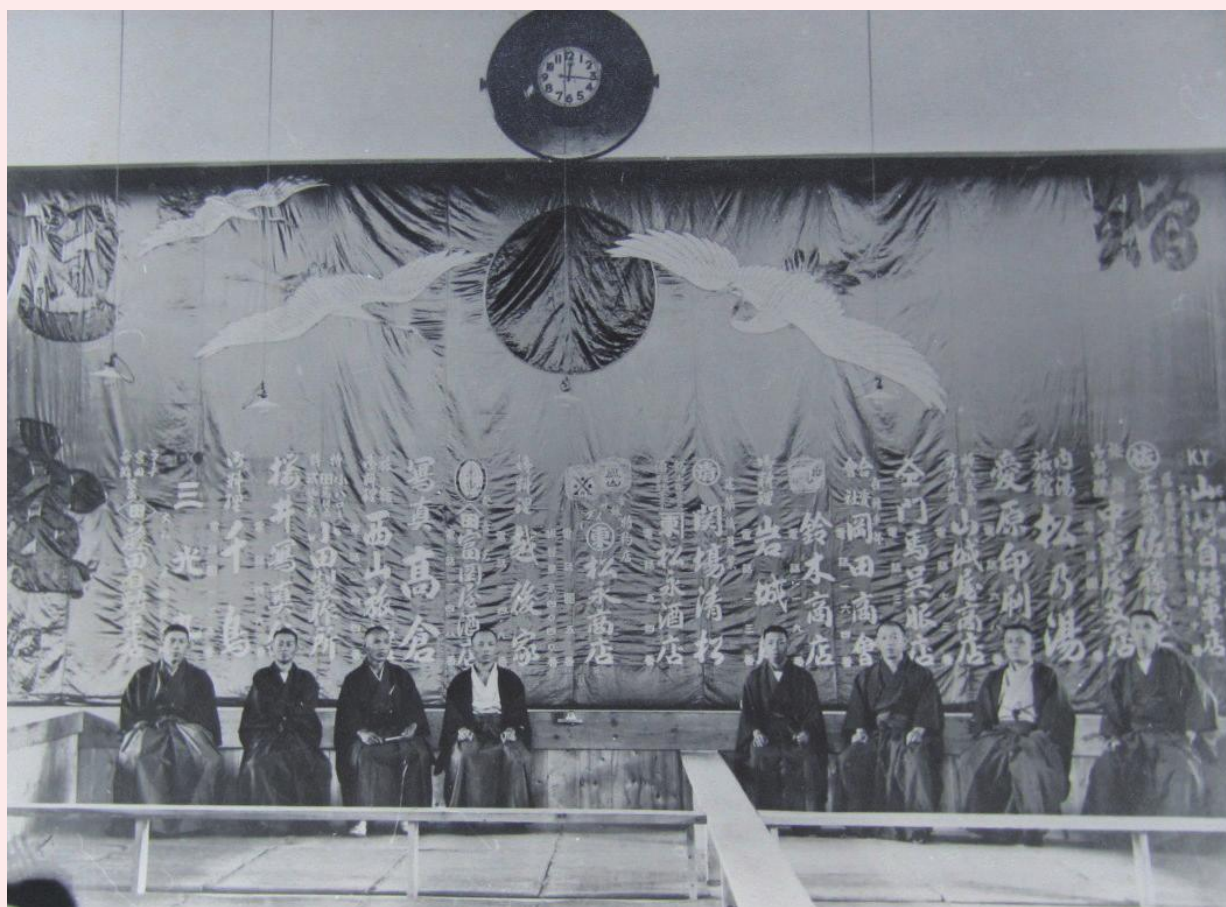
聞き取りからは、昭和 31 年に本格的に開始された映画館への改修工事以前の内部写真は残されていないとのことだが、大正 12 年に「旭座」が落成した記念撮影写真が残る。

羽織袴姿の旦那衆の後ろに下がる緞帳には、堂々とした文字で「旭座」（昭和 26 年に「朝日座」に改称）とあり、中央には朝日と思われる円形と

鶴が描かれている。また、出資会社が連ねられており、なかには現在も原町にて営業を続けている会社がいくつか見られる。

客席は畳敷の枱席、下手には花道の一部が見え、天井からは笠の付いた電球の照明が数本ぶら下がっていたことがわかる。

また、写真台紙には「佐藤写真館 原町市中央通り」と書かれている（写真①）。



①落成記念として旦那衆 12 名のうち 8 名が舞台前に並び撮影した記念写真（大正 12 年撮影）布川雄幸氏所蔵

落成記念写真に写る旦那衆

（布川雄幸氏のメモより）

吉田 寅蔵 鶴谷 株主

布川 実 株主

佐藤 栄蔵

桜井 今朝松

山本 貞蔵 鶴谷 株主

日下 庄吉 小高町鳩原 株主代表

佐藤 宏（芸名 南部幹人）

関場 清松 建設請負

当初の姿（昭和 11 年）

朝日座の建物調査や公開イベントを続けるなかで、通り西向かいの自宅ベランダ 2 階から撮影された、当初と思われる朝日座の写真が初めて発見された。写真に写る子どもたちの 1 人が昭和 5 年生まれであり、朝日座が建てられてから 13 年後の昭和 11 年の写真だと考えられる。

妻面には右から読む「旭座」の文字が見える。屋根頂上部の飾りは現在と変わらない。(写真②)。現在の二階開口部の内側に残る当初のドイツ壁が、本写真の外壁と同様であると考えられる(写真④-1)。当初の外壁は正面左側の一階部分と合わせ 2 ヶ所に残っている(写真④-2)。

また、昭和 10 年の秋市興行を描いたイラストからもドイツ壁であったことが窺える(写真⑤)。



②当初の朝日座と思われる写真。妻面に当初の名称「旭座」の文字が見える。渡辺昭夫氏所蔵

原町映画劇場オープン記念写真（昭和 26 年創建）

朝日座が映画館として改修工事を行う約 5 年前に完成した原町映画劇場は、映画館として改修された朝日座の外観や内部の様子など、多くの共通点を持っている。いずれも高藤建設が施工しており、現在の朝日座は、原町映画劇場の姿を取り入れたことが窺える(写真③)。



③昭和 26 年に完成した原町映画劇場のオープン記念写真。布川雄幸氏所蔵



④-1 正面二階の窓内側 ④-2 正面左側の一階部分
当初の外壁が 2 ヶ所に残る



⑤昭和 10 年の秋市興行時の写真を画にした資料（鹿又泰・画）。二上英朗氏所蔵

屋根葺替と工事見学会（平成 24 年 3 月 2 日）

屋根の調査

屋根の老朽化による雨漏りのため屋根葺替工事を行うこととなった。工事にあたっては、屋根南面の痕跡および聞き取りから屋根材の変遷などについて調査を行った。「強風で瓦屋根が飛んだ」と聞いたことがあるとの声も聞かれたが、痕跡調査では瓦葺きや一文字葺きの痕跡が見られなかったため、最終的に地元の方々が最も見慣れている赤色の瓦棒葺きとすることが決まった。

東端頂部の屋根飾りは、映画館として改修工事した際に強風時に風切り音がするという事で下ろされていたそうだが、本工事により復活し、より生き生きとした姿となった。

同時に行われた非常口の扉の取替えについては、建物の年代や改修変遷を示す鉄板貼りや 2 色のペンキ塗り部分は基本的に現状維持とし、傷みが著しい部分のみ取替えが行われた。

工事見学会

工事中にしかできない、屋根を間近に見て触ることで、朝日座をもっと知ってもらうための屋根工事見学会を開催した。

遠くから見ただけではわからないが、足場にのぼり、当初だと思われる工法通り、トタンを丁寧に折り曲げ釘を打つ職人の技を間近で見る事が



どのような修理を行うか調査している様子



屋根葺替工事の様子



屋根葺替工事見学会 工事中にしかできない足場にのぼり間近で工法や素材を見て触る見学会を開催した

屋根工事の基本的な考え方

- 国登録有形文化財に向け、外観は歴史的建造物としての根拠（聞き取り・痕跡）を元にした工事とした。
- 歴史的建造物としての根拠が不明の場合は、地元の方々が最も親しんでいる現在の形状を維持することとした。将来的に、明確な根拠が判明した際は、根拠に基づき復原することが考えられる（南面は一文字葺きの痕跡が見られなかったが、今後、東面の一文字葺きの痕跡を調査し、当初が一文字葺きと判明した場合、厳正な復原を考えると東面のみ一文字葺きだった可能性も考えられる）。
- 建物内部の破損は、雨漏りが原因となっている箇所が多いため、大屋根の工事を優先的に行い雨漏りの原因を根本から除くこととする。

できた。また、近くで見る屋根飾りは、地上から見ていたものとのスケール感の違いや、屋根飾りの細かな装飾を観察することができた。予想以上に高く感じる足場にのぼり、おっかなびっくりしながらの体験だったが、特別な機会となった。

同年4月27日には、完成した屋根のお披露目を開催し、同時に朝日座の舞台裏、舞台袖、映写室など普段入ることができない場所を見学する見学ツアーも同時開催した。ロビーではお披露目会の感想や、朝日座の活用アイデアをいただき、多くの地元の方々とロビーが賑わった。



屋根葺替工事前の朝日座

屋根葺替お披露目会で参加者からいただいた声

朝日座探検ツアーで興味があったこと

- ・舞台裏ツアーが一番おもしろかった。旅芸人の落書きやサインに「芸」への思いを感じた。
- ・朝日座の裏の部分があることがわかり、市民に広く知ってもらいたいと思った。
- ・屋根が鮮やかなエンジ色でとてもきれい。樋なども銅製に直したい。
- ・朝日座をこんな風にしたい、というコンペをするとおもしろい。
- ・朝日座の謎ツアーがおもしろかった。よくわからないことがいろいろあっておもしろい。
- ・朝日座に住んでいた方の物語を知りたい。
- ・奈落の底ツアーがあると楽しい。
- ・いつも新発見がありうれしい。
- ・自分が生まれたときには映画館だったため、芝居小屋としての役割と、その後の変遷が興味深かった。

朝日座の活用アイデア

- ・仮設住宅に住んでいる高齢者の方に朝日座で楽しんでもらうことを考えたい。昔の映画上映や落語など。
- ・青葉幼稚園で60年ほど前に学芸会を朝日座で開催したことがある。
- ・朝日座で当時の思い出を話す「思い出はなし会」を開催してはどうか。



屋根葺替お披露目会 屋根工事内容の解説をしている様子。写真の屋根右側の屋根飾りが本工事により復活した

文化財登録記念：おめでとさん会

平成 25 年 12 月 14 日

相双地区初の国登録有形文化財（建造物）の告示を受け、これまで原町で人々が集まる拠点として活躍し続けてきた朝日座を祝うため「おめでとさん会」を開催した。

当日は、これまでの朝日座や原町区の歴史的な建物や町並みの調査およびイベントの開催報告のほか、朝日座の映画上映、舞台裏や栈敷などをまわる見学ツアーも実施した。特に見学ツアーでは朝日座の芝居小屋時代のあらゆる痕跡に注目した解説が行われ、盛り上がりを見せた。元館主や地元の方々、これまでの工事や調査などに協力してくださった方々から多くの参加があり、人々を引き寄せ、つなげる朝日座の魅力は健在であった。

この日、朝日座が南相馬市の歴史的な建物や町並みに関する取組みを牽引する新たな出発点となった。



のほりを立ててお客さんを迎え入れる準備



盛り上がった見学ツアーの様子



記念撮影 舞台前に並ぶ旦那衆たちが写る朝日座落成記念写真を真似てパシャリ。平成に新たな歴史が刻まれた



映画「幸せの黄色いハンカチ」をモチーフに、いつもと異なる顔を見せる朝日座



ロビー 昔の映画ポスターがいくつも飾られ、映画上映やイベント後には笑顔の人々で賑わう。

おめでとさん会の限定のグッズ詰め合わせ

朝日座を楽しむ会青年部の協力の元、一度しかないお祝いの機会に、ご来場いただいた方への御礼として、限定グッズを作成・配布した。

・トートバック、缶バッジ（おめでとさん限定、朝日座写真）、名刺サイズカード、ポストカード、クラッカー、ロウソク型ライト、チケット



朝日座大掃除で見つかったガラス製のお菓子入れを実際に活用



おめでとさん会の限定グッズセット。クラッカーも大活躍した



受付ではチケットもぎりも行った

ーおめでとさん会のその後ー

（右）国登録有形文化財プレートのお披露目会も行った。
（下）プレートは、現在も大切にロビーに飾られている
（平成 27 年 5 月 10 日）



朝日座の小物類

建物調査にともない、朝日座に関する小物類を見せていただき、また大掃除で新たに発見するものもあった。元館主の布川氏は、アイディアマンでグッズづくりなどが得意だったという（布川夫妻への聞き取りによる）。朝日座の建物、そしてそこに関わる人々や使われていた物などからも、朝日座の歴史を知り、深めることができる。



倉庫から見つかった昭和46年3月30日まで有効な招待券



正面外観と内部が描かれた封筒が見つかった。当時の館主布川雄幸氏の知り合いの原町高校の美術部の方が描いたという



駅前通りの木村印舗が作成したものもあるという
朝日座の判子



二階から見つかった映画館時代のお菓子の値札など



参考文献

- ・布川雄幸・二上英朗「朝日座全記録 1923～2003」2003
- ・若松丈太郎編集『開館50周年記念 わたしと朝日座 1921—1971』1971年11月3日 朝日座

